

令和 8 年 5 月 15 日

## 学校関係者評価委員会 議事録

学校法人国際共立学園  
学校関係者評価委員会  
委員長 阿部 浩  
議事録作成者 丸山

会議名	学校関係者評価委員会 定例会議
開催日時	令和 8 年 5 月 15 日 18:00~19:00
場所	国際理容美容専門学校 新館 6 階
出席者	<b>【委員】</b> 阿部 浩(教育機関)、大澤 正彦(教育機関)、遠藤 友子(業界)、富岡 啓夫(業界) 二本木 修(業界、卒業生、保護者) ▼オンラインでの参加 竹島 由紀恵(教育機関)、文道 優妃(教育機関)、篠崎 沙織(業界、卒業生) <b>【教職員】</b> 五十嵐 久乃、工藤 佑輝、小川 立行、高橋 正樹、高橋 淳実、嶺 雄太、福島 三奈子 池田 昌央、岡田 真太郎、境田 三友紀、丸山 菜七子(事務局)
配布資料	自己評価報告書(事前配布)、自己点検評価表、成績推移一覧

今年度から評価項目が変更となり、評価基準も 4 段階から 3 段階へと変更された。

学校作成の自己評価報告書に基づき、各委員が事前評価をおこなった。

学校側の自己評価と委員の評価点数に差異がある箇所について、学校側が補足説明をおこない、その後は質疑応答と自由討論の場とした。

～進行内容～

- ≪ 1 ≫ 資格試験結果報告
- ≪ 2 ≫ 基準 2: 教育課程、教育の実施、学修成果
- ≪ 3 ≫ 基準 3: 学生の受け入れ、学生支援
- ≪ 4 ≫ 質疑応答・自由討論

校長	<p>今年度は「未来を創造する学校」と運営方針を設定し、今本校が持っている資源（リソース）を再確認しながら、今後の学校運営に立ち向かっていきたいと考えている。</p> <p>学校関係者評価委員会も長いこと続けてきているが、本日は多くの意見を承りたい。</p> <p>※姉妹校（国際共立学園高等専修学校）の小川校長および高橋教務主任のご挨拶あり。</p>
阿部委員長	<p>国際理容美容専門学校とは長い付き合いである。文科省からの指示や通知が多いなかで、現場の教職員は日々対応に追われることが多く、現実問題として実施が難しい内容も多いが、長く積み上げてきたものをブラッシュアップし、新たな学校の運営方針のためにも活発な議論を期待したい。</p>
丸山（事務局）	<p>≪ 1 ≫ <b>令和 7 年度卒業生 資格試験結果報告</b></p> <p>令和 7 年度の資格試験結果の数値について説明。</p>
学校側説明 担当：境田	<p><b>ビューティアーティスト科の試験結果 要因</b></p> <p>ビューティアーティスト科では卒業後、3年目で通信課程という形で資格を取得する。働きながら通信課程に通うのは、それぞれの時間の調整や自己管理が必要になる。今回、実技対策日の出席率は高かったが、筆記試験対策日の欠席者が多かったことが要因である。</p> <p>今後はビューティアーティスト科の職員が3年目の出席の管理を徹底していく。また出席日に来られない場合は補習として別日程を設けていく。</p> <p>卒業から時間が空くと、筆記試験内容に関しては一から勉強し直しになってしまう学生も多いため、今後は小テストを定期的実施して、筆記試験の合格率を100%達成できるように目指していく。</p> <p><b>【学外委員から】</b></p> <p>通信課程の学生は国家試験の勉強はおろそかになりがちではあるが、サロンとしては国家試験を取得してもらわないと困ってしまう。一部サロンではお昼休みなどを使って、国家試験の勉強を取り入れている。またセミナーや講習会なども参加は任意ではあるが、参加した場合はお給料を発生させるなどの対応も行っている。</p> <p>サロン側でも協力できることはあると思うので、適宜情報共有が必要だと感じる。</p>
	<p>≪ 2 ≫ <b>基準 2：2 教育課程、教育の実施、学修成果</b> ※投影資料使用</p> <p>2-2-1 の記載内容について、学外委員から「小テストの導入による学生の意識の変化や教職員の活用についてどのようになっているのか」という質問を受け、学校からの説明を行い、下記の議論をもとに、委員の評価を「3」と決定した。</p>
学校側説明 担当：嶺	<p>令和 6 年度生から小テストを行い、導入してから 3 年目になるが比較的テストの点数は上がっている。令和 5 年度から学科試験の試験期間も変更に伴い、集中型ではなく試験期間を設け、科目を分散することで、学生も勉強に取り組みやすくなった。</p> <p>1 年生に関しては小テストの重要性が希薄な学生も多い。</p> <p>2 年生になると小テストの重要性を理解しており、学習も浸透してきている。</p> <p>小テストが取れない学生に関しては筆記試験にも影響してくるため、対策をしている。</p> <p><b>【学外委員から】</b></p> <p>高校現場では、小テストぐらい何とかできるだろうといった意識の生徒も多い。</p> <p>やる気の低い学生生徒を指導するのはいつの時代も難しいことだが、点数を細かくフィ</p>

	ードバックをしていくことが大切である。学習意欲を向上させるためには、小テストなどを通して上昇していく自分を体感してもらい、それが周囲の生徒へ循環していくことが理想である。
	<p>≪ 3 ≫ <b>基準 3：学生の受け入れ、学生支援</b></p> <p>3-2-1 の記載内容について、「1」と評価した学外委員に理由を確認し、学校からの説明を行い、下記の議論をもとに、委員の評価を「2」と決定した。</p>
学外委員	海外からの学生を受け入れているのか、情報を確認ができず「1」と評価をした。
事務局	海外の学生も受け入れをしているが、事例が少なく毎年1～2名程度にとどまっている。日本語学校への訪問などに取り組んではいるが、今後、さらに留学生への発信を強化していく必要がある。
校長	合理的配慮が必要な学生に対する支援は、入学前の申し出がない現状であるため、こちらから断定して支援することは難しい。今後は、配慮が必要な学生においては入学前に情報を収集できるように、高専接続強化が必要である。
	議題終了後は、教学生指導における内容について約 20 分間意見交換をおこなった。
次回開催予定	2027 年 2 月 12 日 18：00～